

京築ヒノキ 商品開発本格化

京築ヒノキを使った若い世代が好む家具などの商品開発プロジェクトに取り組み西日本工業大(刈田町)と西南女学院大(小倉北区)の学生が、今

から活動を本格化させている。学生たちは開発実現に向け、一步一步前進を図っており、関係者は期待を寄せている。(佐伯浩之)

西日本工業大生

将来の展示場 民家を改修へ

行橋市で現地調査

西日本工業大デザイン学 築ヒノキを提供する予定
部建築学科の学生4人は4日、開発した商品を表示する行橋市内の民家のリフォームに向けた家屋調査を現地で行った。

学生は石垣充准教授のゼミ生ら。民家は同大職員の西村健司さんが、現在誰も住んでいない妻の実家(同市南大橋4丁目、築約40年)を提供した。

西村さんは7年後にこの実家に住む予定で、学生は西村さん家族の要望を取り入れたうえで住宅改修を行うという。改修に必要な木材は、プロジェクトを統括する「京築地区森林・林業推進協議会」が京

林業推進協議会」が京



商品に関するインタビューをする西南女学院大の学生たち

西南女学院大生

「若者が買う家具は」 雑貨店訪問 助言受ける

石垣充准教授(手前)の指導を受けながらリフォームの調査を行う西日本工業大の学生たち

4人は石垣充准教授の指導の下、メジャーやパソコンを使い、部屋の柱などの寸法を計測した。吉永優成さん(21)は3年生。自分たちが設計した案が形になるのやりに「自分が設計した案が形になるのやりに「自分が設計した案が形になるのやりに」と話していた。

西南女学院大文学部観光文化学科の3年生4人が6日、福岡市中央区渡辺通の雑貨店「天神ロフト」を訪ね、現場の責任者から商品開発に関するアドバイスを受けた。

4人は高橋幸夫准教授のゼミ生。京築ヒノキを使った家具開発では、若い世代が購入したくなる商品を市場調査し、デザインを担当する西日本工業大生に提案するのが役割だ。4人は、天神ロフトの野村純館長と黒田旭企画担当課長に企画の趣旨とこれまでの活動を説明。学生は2人から「若者に受ける商品は見た目で引きつける必要がある」などの助言を受けたという。

ゼミ生の1人(21)は「興味深い話だった。西日本工業大の学生にいい提案できるようにしたい」と話していた。

高橋ゼミのほかの学生も8日に小倉北区の家具専門店「インテリア」でインタビューを行い、商品開発に向けたヒントを得る。